目次

5 総論 工芸の見かた・感じかた——五つの視点と歴史と　金子賢治

9 細部の真実　撮影／斎城卓
飯塚琅玕斎の竹編　寺井直次の金胎蒔絵　小宮康助の江戸小紋　内藤四郎の彫金
太田儔の籃胎蒟醤　黒田辰秋の螺鈿　前史雄の沈金　岩田藤七の宙吹きガラス
江崎一生の常滑焼　森口華弘の友禅　竹内碧外の京指物　清水卯一の青磁

34 工芸家の工芸研究——「伝統工芸」を確立した近代の工芸家　木田拓也

37 素材を手の内に　撮影／斎城卓
ガラス—藤田喬平　漆—赤地友哉・角偉三郎　青白磁—塚本快示・加藤土師萌
衣裳人形—平田郷陽　金襴—喜多川平朗・北大路魯山人　型絵染—芹沢銈介・稲垣稔次郎
竹—田辺竹斎・三代田辺竹雲斎　色絵磁器—富本憲吉・藤本能道
紬—宗廣力三・志村ふくみ　青磁—板谷波山・三浦小平二
螺鈿—黒田辰秋・佐々木英　陶磁—富本憲吉

62 工芸技法の伝承と教育——その現状と工芸界の取り組み　唐澤昌宏

65 相承の系譜　撮影／斎城卓
富本憲吉と藤本能道　田村耕一と松井康成　赤地友哉と増村益城　芹沢銈介と柚木沙弥郎
小山冨士夫と塚本快示　中村勝馬と山田貢　高村豊周と西大由　松田権六と田口善国
平田郷陽と芹川英子　稲垣稔次郎と伊砂利彦　石黒宗麿と清水卯一　氷見晃堂と川北浩一

78 工芸家の交友と制作——友禅をめぐる二つの「個」　今井陽子

81 古典が息づく現代の工芸　撮影／斎城卓　ほか
松田権六—螺鈿桜文椀　稲垣稔次郎—紙本型絵染平家物語屏風　平田郷陽—桜梅の少将
石黒宗麿—千点文香合　加藤卓男—三彩鉢・蒼容　喜多川平朗—紅地鳥蝶唐花文錦
生野祥雲斎—白竹一重切華入・くいな笛　北村武資—浅黄地透文羅裂地
澤口滋—黒漆塗応器　鈴田照次—紬地木版摺松文着物　黒田辰秋—赤漆流稜文飾箱
荒川豊蔵—志野茶碗　森口華弘—友禅訪問着・早春　増村益城—乾漆盛器
富本憲吉—色絵薊文角鉢　高村豊周—鼎　金重陶陽—備前焼耳付水指
鎌倉芳太郎—印金朧型着物・瑲　大木秀春—桃帯留　齋田梅亭—截金菱花文飾筥
中里無庵—唐津水指　初代長野垤志—松林の図肩衝釜　野口光彦—陽炎
十三代今泉今右衛門—色絵かるかや文鉢

106 工芸と展覧会——独自の「発表の場」を求めて　北村仁美

109 茶室の工芸学―現代工芸家の茶器　撮影／アローアートワークス　ほか

石黒宗麿―黒釉葉文碗　田口善国―水鏡蒔絵水指　角谷一圭―独楽釜
川喜田半泥子―志野茶碗・赤不動　音丸耕堂―彫漆薺文茶入　飯塚琅玕斎―花籃・あんこう
三輪休和―萩四方水指　黒田辰秋―螺鈿玄字香盒　鹿島一谷―布目象嵌秋之譜銀水指
荒川豊蔵―黄瀬戸竹花生　小川松民―松竹梅漆画会席飯汁椀　二十代堆朱楊成―青楓雉子香合
松田権六―蒔絵松桜文棗　岡部嶺男―灰青瓷盌　山本陶秀―肩衝茶入　浜田庄司―地掛鉄絵草文茶碗
生野祥雲斎―虎圏　金森映井智―象嵌鋳銅花器　田口善国―とくさ蒔絵切貝水指
初代長野垤志―竹文姥口釜　ルーシー・リー―マンガン釉線文碗　赤地友哉―曲輪造彩漆中次
高村豊周―朧銀花入・落水賦　荒川豊蔵―信楽水指　松田権六―漆絵梅文椀　有岡良益―肥松盛鉢
内藤四郎―草文銀小筥　加藤土師萌―色絵金彩菊文水指　音丸耕堂―彫漆紫陽花茶器
生野祥雲斎―紫竹まがき華籃　齋藤明―蠟型朧銀花器　小林菊一郎―うろこ文切子鉢、小鉢
三輪壽雪―鬼萩割高台茶碗　松田権六―蒔絵撥鏤双雀文雪吹　磯井如真―蒟醤龍鳳凰文八角香盆
関谷四郎―赤銅銀接合皿

146 近代美術館のなかの工芸館―工芸館のコレクションをみる　諸山正則

149 掲載作品作者紹介

166 あとがき

167 執筆・協力等一覧

※本書に紹介されている工芸作品は、すべて東京国立近代美術館の所蔵になるものです。
※作品名欄に記載した寸法の単位はセンチメートルで、h＝高さ／w＝幅／d＝奥行／D＝胴径／L＝長さを表します。